

『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～ 開催概要

- 1 開催日時 平成30年12月4日(火) 午後3時00分から午後6時00分
- 2 開催場所 議会棟 404, 405号会議室
- 3 出席者
 - 県下18高校の1～3年の生徒59名、校長、教頭、教諭等の学校関係者
参加生徒・・・須坂、北部、長野商業、篠ノ井、岩村田、野沢南、岡谷東、伊那北、松川、蘇南、
梓川、松本深志、松本蟻ヶ崎、長野日本大学、上田西、佐久長聖、東京都市大学塩尻、
松商学園高校
 - 鈴木 清議長、小林東一郎副議長
 - 広報委員
酒井 茂議員、堀場秀孝議員、小山仁志議員、山口典久議員、高島陽子議員
 - 会派選出議員
丸山大輔議員、共田武史議員、今井愛郎議員、寺沢功希議員、小川修一議員、
和田明子議員、百瀬智之議員
- 4 開催内容
議会傍聴、プレゼンテーション、グループディスカッション、意見・感想等の発表
- 5 プレゼンテーション及び意見交換会テーマ
 - ① 食糧問題についての提案 ② 高校生の海外進出についての提案 ③ 学校設備、環境について
 - ④ 住民自治と地域おこし、条例の提言 ⑤ これからの学校への提言
- 6 参加者 98名(議員14名、生徒59名、傍聴者25名(学校関係者含))



○開会

(司会：小林副議長)

本日は、主体性を育む夏合宿にご参加いただいた高校生の皆さん、それから公募に応じていただきました高校生の皆さん、全部で59名の高校生に参加をいただきまして大変ありがとうございます。ただ今から、『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～を開会いたします。

本日の司会を務めます、県議会副議長で広報委員長の小林東一郎であります。よろしく願いいたします。

○長野県議会議長あいさつ・県政報告

(小林副議長)

それでは、長野県議会を代表いたしまして鈴木清議長からあいさつ及び県政報告を申し上げます。

(鈴木議長)

皆さん、こんばんは。本日は、「こんにちは県議会です」を開催いたしましたところ、多くの皆さんに県内各地からご参加いただき、本当にありがとうございました。また開催にあたりまして、長野県高等学校長会の皆さまには、本県議会と共に主催者として多大なご協力を賜りました。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げたいと思います。

さて、本日の意見交換について触れる前に、県政について若干の報告をさせていただきます。先ほど11月定例会本会議を傍聴していただいたところですが、どのような感想をお持ちになったのでしょうか。一般質問は、限られた時間の中ですが、質疑の中では皆さんの生活に関わる大切なことが多く論議されていることがご理解いただけたかと思っております。お手元には、9月定例会の概要を掲載した広報紙をお配りしてございます。そこでは、阿部知事の3期目の県政運営の他、皆さんに関わりの深い高校の冷房設備整備の方針についても議論がされました。早期設置を議員からも知事に要望しました。2020年の夏までには、全ての県立高校で冷房設備の設置が完了するよう準備を進めるとのことでした。

さて、本日は皆さんが合宿で他校の生徒さんたちと共同し、探求的な学びとして主体的に取り組んだ成果や、県議会に提言をしたいという生徒さんの発表をお聞きできるということで、出席した議員全員、大変楽しみにしております。その後の意見交換会でも、普段皆さんが考えていることや、高校生の目線による柔軟な発想からの意見を、ぜひ臆することなく、遠慮することなく発言してほしいと思います。

選挙年齢が、皆さんご承知のように18歳に引き下げられたこともあります。本日の経験を契機として、皆さんに県議会や県政に対する関心をより一層深めていただくことを期待しております。

今回の「こんにちは県議会です」をはじめとして、引き続きより開かれた県議会を目指して取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆さま方の一層のご協力をお願い申し上げまして、開会にあたってのごあいさつとさせていただきます。今日は、肩の力を抜いて自由に気楽に思うことをどんどん意見を出してください。今日はありがとう。

○長野県高等学校校長会長あいさつ

(小林副議長)

続きまして、同じく主催者であります長野県高等学校長会の会長で、松本深志高等学校の校長の今井義明先生よりあいさつをお願いいたします。

(今井会長)

改めまして、皆さんこんばんは。高等学校の校長会長を務めております松本深志高校の今井と申します。一昨年度までは高校教育課長を務めさせていただき、県議の皆さんには本当にいろいろとご指導いただきありがとうございました。

本日は、『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～、こういった会を開催していただきまして本当にありがとうございます。また今、議長さんからありましたが、2020年度までに全ての県立高校に、普通教室ですが、エアコンを設置していただくということ決定していただきました。これもありがとうございました。本当に私たちは、夏は息も絶え絶えで授業をやっておりましたので、本当にありがたい限りです。ありがとうございました。

今、県の高等学校の校長会では、長野県の高校生の主体性を育むために、学校の枠を越えて交流をしながら主体性を育もうという機会をつくっております。先ほど紹介がありましたが、この夏には合宿を行いまして、全県から15校83名の高校生が参加をいたしました。4つの分野、学習・課題活動・社会問題・人間関係の4つの課題について、10のテーマを設けまして熟議を行い、最後にまとめたものを発表するという形の合宿を行いました。また、小林副議長からも紹介がありましたが、本日参加している生徒はこの夏合宿に参加した29名、そこに新たに公募で応募してくれた30名の高校生を加えて、59名がこの会に参加しております。各校のリーダーたる意欲ある高校生同士、主体的な活動を情報交換しながら、共同して作り上げた提言を県議の皆さまに発信する、そのために今日はしっかりと周到に準備をしておりました。まだ少し緊張気味だと思いますけれども、今日は高校生の声にしっかりと耳を傾けていただく、そういう貴重な機会になることを心からお願いしたいと思います。今日はどうぞよろしくお願いたします。

(小林副議長)

ありがとうございました。

○出席議員の紹介、進行方法説明

(小林副議長) それでは、本日出席をしている県議会議員を1班から順にご紹介をいたします。共産党県議団の山口典久議員。

(山口議員)

こんにちは、山口です。よろしくお願いたします。

(小林副議長)

グリーンライトの百瀬智之議員。

(百瀬議員)

こんにちは。

(小林副議長)

自由民主党県議団の酒井茂議員。

(酒井議員)

こんにちは、よろしく申し上げます。

(小林副議長)

信州・新風・みらいの寺沢功希議員。

(寺沢議員)

こんにちは、よろしく申し上げます。

(小林副議長)

新ながの・公明の小山仁志議員。

(小山議員)

よろしく申し上げます。

(小林副議長)

自由民主党県議団の共田武史議員。

(共田議員)

よろしく申し上げます。

(小林副議長)

信州・新風・みらいの堀場秀孝議員。

(堀場議員)

よろしく申し上げます。

(小林副議長)

共産党県議団の和田明子議員。

(和田議員)

よろしくお願ひします。

(小林副議長)

グリーンライトの高島陽子議員。

(高島議員)

よろしくお願ひします。

(小林副議長)

信州・新風・みらいの今井愛郎議員。

(今井議員)

よろしくお願ひします。

(小林副議長)

新ながの・公明の小川修一議員。

(小川議員)

よろしくお願ひします。

(小林副議長)

自由民主党県議団の丸山大輔議員。

(丸山議員)

よろしくお願ひします。

(小林副議長)

以上であります。

では、本日の進行方法についてご説明いたします。まず、生徒の皆さんから次第にあります5つのテーマについて、それぞれ4分程度でプレゼンテーションをしていただきます。テーマのうち、1番、3番、5番については、生徒の主体性を育む夏合宿において、他校の生徒と情報や意見の交換をしてまとめた提言です。2番、4番のテーマは、公

募により生徒さんから応募があった提言であります。

プレゼンテーションが終了しましたら、発表のあったテーマに関して意見交換を行います。生徒の皆さんが、あらかじめ班ごとに話し合うテーマを決めてありますので、その順番で約 50 分間、自由にグループディスカッションをしていただきます。進行は、各班の担当の生徒さんをお願いいたします。

意見交換では、必ずしも結論を得ることを求めるものではありませんが、残り 15 分程度のところでまとめに入るアナウンスをいたしますので、班内で話し合った内容を集約した上で、各班の発表担当の生徒さんから発表していただきます。その際、班ごとの持ち時間を 5 分間とし、その時間内で同じ班の代表議員 1 名からも一言感想を述べていただきたいと思っております。以下、同様に 7 班まで順番で発表を行っていただきます。進行方法についての説明は以上であります。

なお、本日の『こんにちは県議会です』はビデオ撮影を行い、あわせて概要を後日県議会のホームページに掲載いたします。

また、報道の皆様をお願いいたします。本日のプレゼンテーションや意見交換の様子の撮影については、あらかじめ生徒の皆さんたちの了解をもらっております。グループディスカッション開始後、自己紹介が終わる最初の 5 分程度が経過いたしましたら、取材する皆さんは、意見交換に支障の無い範囲で会場内を移動してもらって構いません。なお、終了後に生徒さんに直接個別に取材される場合については、あらかじめ本人の了解を得た上で、新聞への掲載や放映する旨の確認を取るなど、個人情報の保護には十分ご配慮くださいますようお願いいたします。

○プレゼンテーション

(小林副議長)

それでは高校生の皆さんのプレゼンテーションを始めていただきます。スクリーンが 2 つありますので、見やすいほうをご覧くださいと思います。

1 番目のテーマは、「食糧問題についての提案」です。それでは発表をお願いします。

(代表生徒)

私たちは、夏合宿で話し合い、また授業の一環として課題研究に取り組んでいるエネルギー問題の一つとして食品ロスについて考えました。食品ロスは一体何が問題なのでしょうか。まず、第一に倫理観の問題があると思います。世界では、飢餓で多くの命、とりわけ子どもたちの命が失われているのに対し、日本では、世界中からの飢餓地域への援助量の 2 倍近い量を捨てているのです。本当に心の痛む問題ですが、同時に私たちの生活を脅かす側面もあります。

食べ物は捨てられた後、燃やされます。これらの食べ物はゴミとして扱われ、ゴミ問題・環境問題にも関わってきます。本来は食べられるはずの物を、お金もエネルギーも使い廃棄する無駄なことを行っています。現在日本では、全国で約 646 万トン、事業系とされるレストラン・スーパーからは約 357 万トン、家庭からは事業系廃棄物の約 8 割にも及ぶ 289 万トンもの食品ロスを出しています。

事業系廃棄物については、スーパーに視点を置いて考えました。スライドは塩尻市・松本市内のスーパーにお聞きした結果です。スーパーで売られている商品は、賞味期限が切れる前から姿を消しているのです。以上のことから、食

品ロスが起こる原因としては、商品の売れ残り、また適切な発注を行っていないという人為的なミスが挙げられます。その一方で、あるコンビニチェーンでは発注を人工知能で行ったところ、おにぎりだけで年間、億という単位の収益が上がっているそうです。

(代表生徒)

次に、このグラフは家庭から出る生ゴミの内訳の割合を表したものです。なんと半分近くの生ゴミは、まだ食べられるはずの物なのです。

このような現状の中で、国はこれらの対策を行っています。しかし食品リサイクルは、食品をお金とエネルギーを費やして生産し、そしてお金とエネルギーを使って肥料や飼料に替えていきます。食品に戻るといことは評価されませんが、エネルギーと経済問題においては疑問が残ります。その他にも、市町村の対策として、隣の松本市ではこのような対策を行っているということが分かりました。特に、30・10（サンマルイチマル）運動では、松本市から全国食品ロス削減大会を経て全国に広がっているということが分かりました。

これらは、長野県で取られている対策です。しかし、私たちは県の取り組みはもちろん、隣の松本市の取り組みも知りませんでした。また調べていく中で、長野県がゴミの排出量が全国で一番少ないということも知りました。3年連続で全国1位であることを知っていれば、次の年も頑張ろうという意識につながります。また、もちろんこれらのことは新聞やメディアを通して報道されているのですが、私たち高校生の耳には届いていないのが現状です。

では、どうすれば多くの人に、特に私たちのような学生に伝わるのでしょうか。そこで、私たちは提案します。エネルギー問題と環境問題は、私たちの未来への大きな課題です。だから、人権教育が必ず学校で行われているように、環境教育も同じくらい重視して行っていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

ありがとうございました。

続いて2番目のテーマは、「高校生の海外進出についての提案」です。それでは発表をお願いします。

(代表生徒)

皆さん、こんにちは。

突然ですが、皆さんは海外に行きたいですか。私たちは行きたいです。なぜかというと、外国に行くことで、長野県の経済活動の活性化につながると思うからです。外国で行われている地域問題の解決方法を、私たちが現地で見て学ぶことで多くのことが吸収でき、長野で生かすことができると思うからです。

そこで、私たちは例として長野県と環境が似ているスウェーデンのベクショー市を紹介したいと思います。ベクショー市は、欧州で最もクリーンな都市といわれる地方都市です。1996年から化石燃料の代わりにバイオマスエネルギーへの転換をして地域資源を使うことで、地産地消の増加、化石燃料の大幅削減と経済的な成長の同時実現を果たしました。

このグラフでは、ベクショー市の人口と事業所数を表しています。人口は2000年以降の伸びが高く、毎年1,000

人ほど増加し続けています。事業所数は、2003年から2011年の8年間で約2,000以上の事業所が増加しています。このように、日本で問題になっている人口減少、経済活力の低下、原発問題の解決策は、海外に目を向けることで解決されていくと思います。

このことから、留学率が増加すれば多くのことを学べ、長野県に大きなメリットになると思います。ですので、高校生が留学しやすくなるために、県で留学の費用を負担してもらったり、機会を提供してもらいたいです。したがって、私たちが海外に行くためには、国や県、学校の協力が必要不可欠です。

(代表生徒)

私たちは、平成25年と27年の全国の高校生留学率を調べました。これは平成25年のデータです。次に平成27年です。福井県は27年の留学生率が全国1位、東京都は首都圏である、富山県は25年からの留学生の伸び率が一番高かったことからこの3県を選びました。このグラフから、福井県と富山県で留学生が増加していることが分かります。この2県が増加した理由としては、まず福井県では、県を挙げて県内の高校2年生を毎年100人海外へ派遣する「福井県高校生海外語学研修」を実施しています。また富山県では、平成25年に県内の高校生の異文化理解を深めるため、富山の高校生留学促進事業事業費を予算額に組み込みました。国では、留学促進キャンペーンの「トビタテ！留学JAPAN」を展開しています。そして国や他県だけでなく、長野県では来年3月にスタディーツアーで台湾へ、坂城町では高校生を対象としてタイへ行く企画を進めています。

また、私たち篠ノ井高校でも海外へ目を向けた活動を行っているので紹介していきます。篠ノ井高校では、来年3月4日に実施されるマレーシア派遣に伴い、先月その事前学習として異文化交流、研修、EU大使をお迎えするなどをしてきました。マレーシアへは、篠高生16名が大使として派遣されます。費用は、国からの支援で全額無償です。私たちは、これらの活動を通して海外への興味が湧き、英語をもっと学びたいと思いました。そして、今まで以上に世界へと目を向けていき、もし海外へ行くことができれば、その貴重な体験を生かして地域貢献を行いたいです。

最後に、私たちが一番言いたいことをもう一度言います。高校生が海外へ行く機会をより得やすくするためには、国・県・町・学校の協力が必要不可欠です。県議会の皆さまにも、より多くの高校生が海外交流を盛んに行えるようにご検討をお願いします。以上で、篠ノ井高校のプレゼンテーションを終わります。ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

(小林副議長)

ありがとうございました。

続いて3番目のテーマは、「学校整備、環境について」です。それでは発表をお願いします。

(代表生徒)

これから「学校設備、環境について」、夏合宿の中で話し合ったことを代表して発表させていただきます。私たちが、なぜ学校の設備・環境を良くしたいかと思ったかという、私たちが話し合った時は、まだ普通高校にクーラーが設置されると決まっていなかったのも、やはり教室内の温度が高い、快適に勉強する設備が無いということで、それが勉強への意欲、授業態度の低下につながっているのではないかと考えたからです。夏合宿の際には、こうやってクーラー設置のメリットを話させていただきましたが、2020年夏までにクーラーを設置していただくことが決まったの

で、ありがとうございます。先ほど校長先生もおっしゃっていましたが、松本深志高校にクーラーが付いて本当に助かっています。ありがとうございます。

普通科教室にクーラーが付いたということで、特別教室・体育館等にも目を向けていただきたいと考えています。松本深志高校では、地域住民の方と地域の問題について語り合う場があるのですが、その際に、体育館を使用する運動部が音の苦情によって猛暑の中でも片側の窓を閉めて練習していたり、音に関して苦情が来たりします。そういうときに、酷暑の中でも快適に部活動や授業ができるように、また窓を完全に閉めるなど地域住民の方のストレスが減るように、特別教室や体育館等の空調設備についても考えていただけたらいいなと思っています。

このグラフは、文部科学省がやっている全国学力調査の結果です。クーラーを導入してから全体的に学力が上昇傾向にあることが読み取れます。ですが、次のグラフでは、導入してからのいったんは学力が向上したもののそれから少し低下傾向にあることが読み取れると思います。

環境を整えることで学習意欲が向上するのかなということなのですが、クーラー導入により学力の向上がいったんは見られるのですが、導入後の数年で学力の低下も見られたということで、いったん向上した学力や勉強意欲の維持や向上も必要になってくるのではないかなと私たちは考えました。

では、勉強意欲を維持するために適した空間とは何でしょうか。私たちのグループでは、静かに集中して学習ができる空間、先生に気軽に質問でき疑問を解消できる空間、友達と教えあって知識を高められる空間などが挙げられました。

次のグラフを見てください。これは、「JS 日本の学校」というサイトから取ったネットアンケートの結果なのですが、このように自分の家が一番多いのですが、放課後高校生が学習している場所には多様なものがあるということが読み取れます。ですが、その中でもそもそも学習の場であり、誘惑が少なく誰もが勉強できる場所ということを考えてときに、それは放課後の学校ではないかと私たちは考えました。

私たちから提案があります。それは、学校の学習スペースをより良くすることです。既に生徒が利用できる自習室がある学校も多いと思いますが、既存の自習室には、一切話すことができなかつたり場所が限られたりするなどの問題がある場合が多いので、私たちは放課後の空き教室を学習スペースとして利用することを提案します。一定数の教室を学習の場とすることで、静かに勉強する部屋と友達と教えながら勉強する部屋などを割り当てて使用したり、また先生や学習支援ボランティアさんに教室にいらって気軽に質問できる環境づくりや、人との関わりの中での学習が、放課後の学校の中でもできればいいのではないかなと思っています。

以上のことから、学習環境・設備を改善してより快適な空間にすることで、学習意欲を高め、学力向上につなげていきたいと思っています。このことは各学校で取り入れられることではあるのですが、長野県議会の皆さまから後押しをしていただければ幸いです。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

ありがとうございました。

次に、4番目のテーマは「住民自治と地域おこし、条例の提言」です。それでは、発表をお願いします。

(代表生徒)

皆さん、こんにちは。今、各地で地域を活性化するための取り組みが行われていますが、今回私は、住民自治と地域

おこしということで、住民自治の観点から地域おこしをすることを皆さんに提案したいと思います。

まず、長野県の地域おこしの取り組みにはどのようなものがあるのでしょうか。観光客を増やすための政策として、多くの人が長野を訪れるきっかけをつくることを目指して銀座 NAGANO という建物が銀座に造られています。また、移住を推進するための政策として、移住交流サポートデスクというものが名古屋や大阪の大都市につくられています。

では、このような県の政策で本当に観光客や移住者は増えているのか、このグラフをご覧ください。観光客は、2014年には約8万5,000人、2018年には約5万5,000人に大きく減少していることが分かります。一方移住者のほうは、2014年には約450人、2018年には約900人で倍近く増加していることが分かります。

これらのデータから、私なりに今後の長野県の地域おこしにはどのようなものが必要なかを考察しました。観光については、既に観光名所として成り立っている都道府県があるため、これ以上観光客を増やすのは難しいのではないかと考えました。一方で、移住者が増えていることから、多くの人が永住したくなる、またさらに多くの人が移住したくなるような長野県をつくればいいのではないかと考えました。

そして、長野県のことを一番知っているのは、私たち長野県民です。私たち長野県民ができることとして、条例を制定するというのを提案したいと思います。都道府県などの自治体を運営する仕組みのことを地方自治といいます。このうち、自治体が国から独立して運営されることを団体自治、住民の意思によって運営されることを住民自治といいます。私は今回、この住民自治に注目しました。私たちには、住民自治によって地域を運営する権利が与えられていて、有権者の50分の1以上の署名があれば、条例の制定を求めることができます。

ここで、私なりにどのような条例が長野県にあったらいいのか考えてみました。1つ目は「#信州条例」というものです。これは、この条例を長野県にあるお店に批准してもらい、そのお店に行った際、「#信州」を付けてそのお店のことをSNSに投稿すると、何らの特典がもらえるというものです。もう一つは「信州そば条例」というものです。年末の年越しそばに信州そばを食べることを勧めるものです。このような条例を制定すれば、多くの長野県民が長野県の魅力に気づき、永住したくなるような長野県をつくることができるのではないかと考えました。

皆さんも、このように住民自治を使って長野県をもっと住みやすい県にする条例を制定しませんか。これが長野県の地域おこしにつながると私は考えます。これで発表を終わります。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

ありがとうございました。

続いて5番目のテーマは、「これからの学校への提言」です。それでは発表をお願いします。

(代表生徒)

こんにちは。よろしくお願いします。私たちは、9月に行われました主体性を育む合宿において、これから学校がどうなってほしいかについて考えました。本日は、それに沿って高校生が考えるこれからの学校について発表します。よろしくお願いします。

順番が前後して申し訳ありませんが、スライド資料31ページをご覧ください。私たちは、最も効率のよい授業形式について考え、最適な教室の大きさ、それから授業講座の分け方、そして授業時間について提言させていただきます。今回検討したのは以上の4つなのですが、夏合宿中に先生や生徒にインタビューを行い、それぞれの項目につい

てメリット・デメリットを比較し、考えをまとめました。

それではスライドの始めに戻っていただき、授業時間について説明させていただきたいと思います。今回は、およそ 60 分以下の授業を短い授業、そして 90 分以上の授業を長い授業と定義させていただきました。生徒の意見は以下のとおりです。ここでは、90 分授業だと授業中に分からなくても授業が続いてしまい、置いていかれるかもしれないという不安がある一方、60 分授業だと毎回授業の初めに復習の時間を設けると、最終的にそれに時間を長く取られてしまうという懸念も出ました。

次に、4 年制国立大学を目指す学校の理系教師の意見です。先生からは、90 分授業の場合、生徒が休むとその分を埋めるのが苦しいかもしれないという意見。数学などの時間がかかる教科は、生徒の演習の時間を多く取れるかもしれないという意見が出ました。次に、4 年制国立大学を目指す文系教師の意見です。90 分授業だと、授業とテストが続けてできるので定着しやすいという意見。60 分授業にしたほうが、1 日のコマ数が増えるので、英語などの語学系の教科に触れられる回数が増え、より良く定着するという意見が出ました。そして最後に、私立・専門学校・就職を目指す学校の教師の意見です。やはり、実習のことを考えると長い授業のほうが良いという意見が出ました。

今回私たちが行った比較では、生徒の意見でも先生の意見でも、短い授業、長い授業、ともにメリット・デメリットがあり、どちらも決め難い結果になりました。そこで、一コマの時間を 55 分とし、理系教科等は 2 時間連続で授業を取れるように時間割を組めば、教科の先生の都合で授業時間の長さを選べると考え、そして 55 分授業とすることを提言します。

(代表生徒)

次に、授業人数・教室の広さに関する意見をメリット・デメリットで比較しました。大人数授業だと教師の数と教室数が少なくて済む一方、意見を出しにくい、教室が大きいことで黒板が見にくい、発言者の声が聞こえにくいといった問題も指摘されました。少人数授業だと、先生が個人個人の理解度を把握できる一方、どうしても教師の数と教室数が多くなってしまふことが考えられます。しかし、少子高齢化で生徒の数が減少傾向にあるため、少人数授業の実施は現実的かつ、生徒に多くのメリットをもたらせると考えました。ですので、小さめの教室で少人数授業をすることを提言します。

最後に、授業を受ける講座分けの方法について検討しました。この授業を分ける講座とは、ホームルームを受けるクラスはそのまま、授業を受ける時のみ編成を変えることを前提に考えました。普通のクラスごとに授業を受けるというシステムは、どのクラスにいても目立たず、学力差が露見されない一方、授業のレベルが自分に合わないというデメリットが挙げられました。習熟度別に授業を受けると、自分に合った勉強ができ、教科の得意・不得意にも対応できる一方、個人の学力が分かっしまい、差別が起きる可能性もあるという懸念が出ました。両者とも大きなデメリットがあり、どちらかに決定するのはリスクが大きいと思いました。

ですが、現在一般的には行われていない習熟度別講座は、個人のレベルに合わせられるという大きなメリットがあります。そこで、入学当初はクラスごとに授業を受け、徐々に習熟度別に切り替えることで生徒は向上心を持ち続けることができると考えました。さらに、講座は習熟度別に開講しますが、どの講座で授業を受けるのかは、生徒の希望を基に先生と話し合っ決めれば差別は起こりにくいと考えました。なので、習熟度別の講座分けを提言します。

(代表生徒)

今までの提言をまとめました。まずは、授業時間について55分授業としてほしいです。そして、理系教科や実習系の授業は、時間割を2時間連続になるように組んでもらい、時間を長く取るようにしてもらいたいです。次に、授業人数については20人以下の少人数体制に移行してほしいです。講座分けの方法については、習熟度別に講座を組むことを提言します。しかし、入学当初から習熟度別となると、その時点での学校内順位に甘んじてしまう生徒が出るのが考えられるため、習熟度別にするのは1年次の後半からか2年次からにします。また、この講座分けは先生が一方向的に決めるのではなく、生徒の希望を基に先生との協議の上で決定してください。

今後造る校舎の教室の大きさは、従来より小さい教室にしてください。新しくできた学校の中には、教室と廊下間に壁の無い学校もありますが、防音の意味で壁はあったほうがよいと考えました。また、研究室は入りやすいように校舎の中央に造ったりするなど、今までにはなかった校舎の仕組みにしてほしいと考えました。これが、私たちが考えた校舎のイメージです。

(代表生徒)

私たちは、夏合宿においてこのような考えを発表させていただきました。夏合宿は、一泊二日だったのですが、高校生はここまでの考えをまとめることができます。

現在いろいろな問題が起きている中で、これから学校の教育も改革していく必要があると思います。そのときに、私たち子どもの意見を置いてきぼりにして皆さんで決めるのではなく、県議の皆さんには私たち生徒・児童の意見が入っているかどうかを確認してから審議をしてもらいたいなと思いました。これで発表を終わります。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

ありがとうございました。

○意見交換会

(小林副議長)

引き続き意見交換会に入りますが、班ごとにまず自己紹介から始めていただきたいと思います。それぞれの班にいる議員の方から口火を切っていただいて、全員の自己紹介が終わったところで進行役の生徒さんに後の進行はお任せしたいと思います。では、意見交換を始めてください。

【 1時間ほど意見交換会 】

○意見・感想等の発表

(小林副議長)

皆さん、まだお話ししたいこともあろうかと思いますが、だいぶ外も暗くなってきております。ここで意見交換を

終了といたしたいと思います。各グループで話し合った内容の発表に移りたいと思いますので、それぞれのグループごとに発表と代表議員の感想をお願いいたします。

それでは、まず1班から発表担当の生徒さんをお願いいたします。

(1班代表生徒)

1班では、食糧問題についての提案と住民自治と地域おこし、条例の提言について話し合いました。食糧問題についての提案についてこの班で出た意見は、国がリサイクルをあまり勧めすぎると、その質が落ちてしまうからあまり勧めないほうが良いということと、料理くずがたくさん出たということなので、その調理くずを使った料理を紹介するなどです。ランチパックという商品は、パンの耳がどうしても余ってしまうので、そのパンの耳をスティックとして売るなどの意見が出ました。あとは、運動として30・10運動や、フードドライブなどをもっと勧めれば食品ロスが減るのではないかと思います。

住民自治と地域おこし、条例の提言については、安心して暮らせるように街中の表記の種類を増やす、日本の安全性をもっとアピールする、子連れの人がより永住してくれるように保育士・保育園などを増やす、松本空港をより有効活用する、長野県での就職率をもっと上げるなどが出ました。

(小林副議長)

鈴木議長には、後ほど全体の所感の中で、1班での感想も含めお願いいたします。

では、2班の発表担当の生徒さんお願いします。

(2班代表生徒)

私たちは、住民自治と地域おこし、条例の提言とこれからの学校への提言、現状の授業と私たちの考える理想の授業について話し合いました。

まず、住民自治と地域おこしについては、既に長野県では条例があって、「がん」の条例や「歯科」の条例などがあることを教えていただきました。その中で、私たちが考えた条例を幾つか紹介します。信州野菜の振興を条例化するというので、遺伝子保護をしたり促成化したりすることです。あと、長野県でのフリーペーパーをつくったり、信州について何でも話せるホームページをつくったりするということが挙げられました。

次に、これからの学校への提言についてです。授業について私たちが困っていることなどを挙げると、講座分けをすると真面目にやる講座とふざける講座があって、テストの点などの差が激しい。質問しにくい、復習スペースが少ないということが挙げられました。そのようなことが挙げられるのは、自分たちの意見が学習のカリキュラムに入れにくいということが挙げだったので、私たちの意見を入れられるようにしてほしいと思いました。それを改善するために、学校の先生たちが会議をするので、その中に生徒を入れたりしてほしいということが挙がりました。これで終わります。

(小林副議長)

次に、百瀬議員感想をお願いします。

(百瀬議員)

私たちの班では、まず住民自治と地域おこしなのですけれども、信州そば条例等をはじめ、さまざまな課題を頂いた中で、やはり信州学。若い人たちが、そもそももっと信州を知りたいというニーズがあって、発信もしたいというニーズもある中で、信州学がそもそも浸透していないということ宿題に頂きましたし、またそれに合わせてもう少し若い人向けの、何か施策というの必要なのかなと思ったところでもあります。

もう一つですが、学校の施設、設備のほうですが、来年から松本深志高校の授業が、伝統の 65 分が近い将来 55 分になるということで、これはなかなか生徒の声というのが行っていないのではないかという意見を頂きました。私も深志出身で、自治を叫んでという声か、確か応援歌があったかなと思うのですが、それを実に組織化するというのはなかなか難しいなと思って、こういったことをぜひ先生方とお話しできる機会、それが大事だと思ったところでもあります。また、タブレットや静かに勉強できる機会が欲しいということをお願いしたのですが、私が議員になって考えると、容易に情報端末にアクセスできる機会や、静かにどこかで勉強する機会、これは大人になっても出てくる問題だなと思います。ここで、高校生の方々が抱いた意見、これは大人になっても出てくると思いますので、これから進む中でこういう問題意識を持ち続けていただきたいと思った次第であります。ありがとうございました。

(小林副議長)

では、3 班の発表担当の生徒さんをお願いします。

(3 班代表生徒)

私たち 3 班は、これからの学校への提言と高校生の海外進出について話し合いました。他にも、ここで選考されていないのですが、商店街の活性化や荒廃した土地をどうやって再生化していけばいいかということについても話し合いました。そこから議員さんに評価や感想を言ってもらい、まず、学校の施設については、実現するかは分からないがとてもユニークな発想で良いと言ってくださいました。留学に関しても、教育にお金をかけることで、そうやって地域を活性化することは中国でも例として挙げられているので考えていきたいと言ってくださいました。商店街や荒廃した土地などの利用も、高校生が行うことでより地域活性化につながるのではないかと評価していただきました。

結論が出なくてもいいと言っていたので、私たちの 3 班では、そこからの答えというよりは、こういう会を続けていくということが一番大切なのではないかという考えになりました。議員さんからも、もっと身近な存在になりたいということがあり、私たちも自分たちの意見を言いたいというのがあるので、お互いにプラスのことしかないのではないかと思うので、それでプレゼンテーション大会を定期的に開くことで、選考などなしでやっていけばもっと広い意見が出たり、見方によってはそれがとても良いというのがあるのではないかと思いますし、それで高校生同士も県内でも遠いところと意見を交換できれば、自分たちの高校の問題も解決していけるのではないかとというのが私たち 3 班の結論というか、意見になりました。以上です。(拍手)

(小林副議長)

次に、寺沢議員感想をお願いします。

(寺沢議員)

こんなに多くの人前で話すのは、私は今ドキドキしていて恥ずかしいですけども、皆さんは堂々と発表をされますし、自分の意見も言えて素晴らしいなと思いました。私にも、皆さんと同じくらいの高校2年生の娘と、高校1年生の娘がいますが、この娘たちが皆さんと同じようにしっかりと自分の意見を言えるのかなと不安に思いました。

今発表していただいたプレゼンの他にも、選考で惜しくも漏れてしまった、今日発表できなかったという内容もお聞きしたのですが、本当に私たち議員よりもよほど柔軟で素晴らしい発想ができていますなど改めて感心しました。ぜひ、皆さんのそういう考え、それから夏合宿の経験、そして今日の経験を、まずは皆さんの学校で生かしていただいて、力を発揮していただいて、そして地域でも力を発揮していただきたいなと思います。今日は本当にありがとうございました。そして、本当にもう少し皆さんとまだまだ話がしたい、そして高校生の皆さんも話がしたいと言ってくれました。次回はずいぶん、弁当持参で1日かけて話をしたいなと思います。ぜひ、次の開催もお願いします。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

それでは、4班の発表担当の生徒さんをお願いします。

(4班代表生徒)

私たちは、高校生の海外進出とこれからの学校への提言について話し合いました。海外進出については、大学でも留学はできますが、やはり高校生のうちに留学するメリットとして、進学先や進路の決定を早くすることができるということが挙げられました。しかし、留学をする機会の少なさからハードルが高いように思う人が多いということもまた挙げられました。

したがって私たちの班では、留学することも大事ですが、国内で海外の文化を学ぶことも大事であるという考えが出ました。例として、学校に留学生を誘致することが挙げられます。留学生がいることで、視野が広がるということもあります。また、姉妹校などの制度も活用すべきであると思います。現在は私立に多い姉妹校の制度ですが、この制度によって比較的留学へのハードルが低くなり、また、留学生が学校に来るというメリットもあります。このことから、留学支援だけでなく、姉妹校制度などへの支援もあるといいと考えました。

これからの学校への提言については、最後まで議論が拮抗してしまっていて、まとめることはできなかったのですが、高校のレベルが違うので、そのレベルに合わせた評価の習熟度別や、授業の長さを考えていただくということでまとまりました。まとまっていないですけど、以上です。(拍手)

(小林副議長)

次に、共田議員感想をお願いします。

(共田議員)

私も今日、こうやって多くの方を見て、私が高校生の頃はこんなところに絶対来ないなと思って、皆さんのことを感心して見ていたのですが、こうしてカドタさんがあれだけまとめたのがすごいなと思って、正直感心しました。まず、海外留学の話でしたが、なかなか海外留学のハードルは高いと。その中で、修学旅行を海外にするという考え方はなかなか面白いなと思って聞かせていただきました。また、これからの学校に対しては、高校生活の今の高校生

ライブを聞いて、学校の設備にもものすごく不満を持っているなど。寒い、水が出ない、いろいろ出てきました。そういった声もよく聞く話ですが、私の個人的な感想だと、できるだけ学習環境を良くするために電子黒板を入れたりプロジェクターを入れたりということをやってきた中で、それよりもエアコンのほうが先だろうという声を聞いたときに、ちょっとさみしくも感じながら、政治の在り方は面白いなと勉強させていただきました。こんな機会がまたあれば、いろいろな話ができればと思います。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

では、5班の発表担当の生徒さんお願いします。

(5班代表生徒)

私たち5班では、学校設備・環境についてと高校生の海外進出についての提案について議論しました。学校設備・環境については、まず問題として、これは高校にもよりますが、学校設備を入学前に知る機会が無く、入学してみたら、「いや、待って、クーラー無いじゃん」と、そんな感じのことが起きてしまうので、そういうところはもっと学校があるままの事実を伝えてほしいと思います。その他に、学校設備・環境については、水道周りの設備などが、水道の出が悪いなどそういうこともあったり、和式・洋式の便所の問題もあり、議員さんからは和式にしたほうが股関節の筋肉が増すという、そちらのほうがいいのではないかと、そんなこともありましたけれども、時代のニーズに合わせて洋式のほうがいいのかなと思いました。

まとめとしては、冷房を入れてくれるということになったので、冷房が付いていない僕からするとありがたい、ありがとうございます。冷房を入れる前に、業者がしっかり校舎の点検をして、うちの班ではクーラーを入れると天井が落ちてきてしまう可能性があるなどの高校もあったので、そういうところもやってほしいということです。また、バリアフリーも取り入れてほしいということです。

高校生の海外進出の提案では、海外研修・留学などではうちの班ではみんなが賛成してくれて、でも、その中でもお金の問題があつてなかなか手が出せない、そういうものがありました。そのために、自治体や国などの援助が欲しい。少しでも、航空券だけでもお金を援助してほしいということです。あと、行ける国への選択肢が欲しい。でもそれは、なかなか実現が難しいのかなと思います。うちの班では、話がそれてしまうこともありましたけれども、その中でもその話についてみんなが参加し、とても良い時間になったと思います。(拍手)

(小林副議長)

次に和田議員、感想をお願いします。

(和田議員)

高校生の皆さんと話をする機会、ざっくばらんにいろいろなことが聞ける機会があつて、本当に今日は良かったと思います。その中で、今高校の設備、環境のことも出されましたけれども、そういうふうにして環境を整えても学校の周りで苦情を言う大人社会といいますか、ご近所がいるというお話も出てきました。今までは、教室や特別教室にクーラーが無いので、窓を開けて声を出そうとするとうるさがられるので、これからは閉めてできるけれども、今度は部活で外に行つて、掛け声もうるさいと言って立ちほだかる人がご近所にいるとか、そういうことは何だかとても

悲しい気持ちになりました。やはり、高校生、若い人がはつらつとやっていることを応援できるような地域にできないかなと、今日話を聞いていて思ったことの一つでした。私たちも、まだまだ知らないことがたくさんあるなと思ったので、またこういう機会があるとうれしいと思いました。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

それでは、6班の発表担当の生徒さんをお願いします。

(6班代表生徒)

6班は、高校生の海外進出についてと学校への提言について話し合いました。学校への提言は、授業時間は50分～60分ぐらいがちょうどいい。少人数にするとクラスが増え、教員の人数の問題があるけれど、習熟度別にしたほうが、ついていけない生徒などもいなくなると思います。自分が行く高校の情報をしっかり得ることが大事だと思います。

次に高校生の海外進出については、一般の企業の海外研修があるので、そういうものを自分で情報収集して、申し込んだりすることが大事だと思います。また、10代のうちに海外へ行くことで価値観が変わると思います。でも、海外に目を向ける前に日本のことをしっかり学び、海外で日本のことを話すことも大事だと思います。以上です。(拍手)

(小林副議長)

次に、今井議員感想をお願いします。

(今井議員)

昨年も高校生と語る会があったのですが、こんなに多くはなくて、こういった環境をつくっていただいた正副議長、そしてまた高等学校長会会長の今井先生、本当にありがとうございました。そして、参加していただいた高校生の皆さん、ありがとうございました。

感想というか、自分のことを言っただけですが、自分の頃、私も30年前は高校生だったのですけれども、その頃に比べるとだいぶ違うのだなということがよく分かりました。今、ここにいる8校の方の学校の状態を聞きましても、それぞれ授業時間も違えば、コマ数も違う、やっていることも違う。この情報をしっかり伝えるような制度を県議会としてもしないといけないのかなと思いました。

高校の問題について、海外研修については、先ほど発表してくれた生徒さんからもありましたけれども、長野県でも今井先生が課長の頃、H-LABの支援をしたりなど、そういうこともやって少しでも海外のプログラムを増やしていますので、ぜひアンテナを高くして、海外研修を支援する市町村がたくさんありますので、全部自腹で行くのではなくて、自分で探しながら、県としても当然支援していかねばならないと思いますけれども、ぜひアンテナを高くしてやっていただきたい。そしてまたその思いを、先ほどこれも一つあったのですが、一番感激したのは、海外に行ってやはり日本を学び直さなければいけないということ、郷土を守らなければいけないということを感じてくれた皆さんがいること、ぜひ皆さんも海外に行って、そんな思いをしていただきたいなと思いました。ありがとうございました。(拍手)

(小林副議長)

では、7班の発表担当の生徒さんをお願いします。

(7班代表生徒)

私たち7班は、住民自治と地域おこし、条例の提言について議論しました。まず、地域おこしの意見として、高齢者と若者の交流の機会を多くするという意見が出ました。その例として、若者のボランティア意識を高め、学校などでも自主的に行いやすい環境をつくるなどの意見がありました。そのために、ネットやSNSなどの発信も重要になると考えました。

また、高齢化した地域を暮らしやすくするためには、安心した医療を受けられる環境の整備が大事であって、その例として駅から病院などの施設までバスを出すということが考えられます。また、長野県に移住してきた人の中に、なかなか地域になじみにくいという問題点が挙げられました。ですので、移住者が地域になじみやすくなるように、県民たちから差別的な部分を取り除く、もっとオープンになるなどといった点が考えられると思います。以上です。

(拍手)

(小林副議長)

では丸山議員、感想をお願いします。

(丸山議員)

皆さん、大変熱い思いと夢とアイデアを語ってくれまして、素晴らしく感じました。暮らしやすい地域をつくる、長野をもっと好きになるようにということで、いろいろな提言をしてもらいました。一つ一つ実現できればいいなというふうに思います。先生の理解も必要だという話もありました。

一番と言ってはあれですけども、中に議員を目指したいという意見があって、これも素晴らしいなと思いました。ぜひ、皆さんも議員という仕事を意識してもらって、いつか地域に対する思いが高まったときに、そういう道を選択するという事も考えてみたらいいのではないかなと思いました。やはり時間が足りない、そろそろ仲良くなれるかなというころに終わってしまいましたので、55分2コマぐらいでぜひやってもらいたいと思います。今日は皆さんお疲れさまでした。(拍手)

○校長会会長・長野県議会議長所感

(小林副議長)

最後に、高校長会会長および議長から、生徒さんの発表などをお聞きになっての感想をお願いしたいと思います。まず、今井会長からお願いいたします。

(今井会長)

県議の皆さん、議会開会中の本当にお忙しい中にもかかわらず、高校生の声に真摯に耳を傾けていただき本当にありがとうございました。生徒の皆さんも、緊張がほぐれるにしたがって、率直に意見を言えたのかなと思います。私たちにとっては耳が痛い話もありましたが、学校だって生徒の意見をちゃんと聞かなければいけないのだということとを改めて感じました。

今日は、冒頭で5本のプレゼンを見ていただきましたけれども、先ほど少し話題になっていましたが、実はこれ以外にも7本プレゼンがありました。時間の都合というのもありまして、今回は選んだ中で発表させてもらいましたが、高校生は機会さえ与えていただければ、主張すべき意見をきちんと持っている。あるいは、ちゃんと持つことができるということだろうと思います。高校生は未来を生きる当事者ですから、高校生を含めた若い人たちの意見、未来を生きる当事者たちの意見を、これからも聞く機会をぜひつくっていただければと思います。私たちも、高校生の主体性がしっかりと育っていくように支援をし、学校の枠を越えた、こうしたさまざまな仕掛けというのを今後も考えていきたいと思っています。本日は本当にありがとうございました。(拍手)

○主催者所感

(小林副議長)

ありがとうございました。次に、鈴木議長から全体の総括を含め感想をお願いします。

(鈴木議長)

今、今井先生からお話がありましたけれども、今日は、皆さんからそれぞれプレゼンの事前資料を拝読しました。よくいろいろな角度からきちんと調べていただいたなど、まずその第一点目に敬意を申し上げたいと思います。そして今、各テーブルで議員同席の下でいろいろな広範な角度から意見の交換が行われたように私は感じております。

大事なことは、こんなことができるのかなとかこれは難しいのかな、決めつける前に、率直に日々の学校生活の中で感じたことをまず意見として出していただく。それを実現に向けてどのような方法でアプローチしたらいいのか、これは次の二番目の問題だと私は思っております。今日は、長野県議会が開会中なのですが、私は議長の立場で、1点目の食糧問題についての事業、これは県の産業労働部長や農政部長はどのように答弁してどのようにまとめるのかなと、つい議場の風景が頭に浮かんでまいりました。そしてまた、環境部長だったら食品ロスに対してはどのような取り扱いを県として説明することができるのかなと、それぞれの部長の顔を思い浮かべながら今まとめさせていただいております。海外進出のことなのですが、これは企画振興部長はどう考えるのかな、最終的に阿部知事はどのようにまとめるのかな、そんなことも受け止めながら今考えておりました。学校の施設の改善、これは教育部長は当然予算の問題がありますからと言うでしょうが、それよりも、まず皆さん自身お声をどのように受け止めて、一つの宿題としてしっかり行政に反映できるのかな等々感じながら、今集約させていただいております。

今、私どもの議会、それぞれ広報委員とか、担当の議員が各テーブルについていただきましたけれども、やはり皆さんと同じ思いで、これからの長野県のこと、そしてまた長野県の将来を担うのは今日お集まりの高校生の皆さんです。どうか、これからも失敗を恐れず、勇気と自信と誇りを持って一步一步前に進んでいただけるように、日々の努力をいただけたらと、そんなことを願っています。

そして、今日の「こんにちは県議会です」ですが、どうもこれは一回で終わることなく、これからも一つの長野県議

会と長野県の高校生の皆さんと、年に4回は議会がありますから、年4回は無理としても、年2回くらいはこれからも継続的な意見交換の場を持てるようにしたらいいかなと、そんなことを議長の立場として、個人的な見解で申し上げさせていただきます。

本当に、今日はありがとうございました。皆さんの素朴な、そしてまた率直な、ときには奇想天外な意見、大変背筋がピシッととなりましたし、初心忘れるべからず、それぞれの議員も出発点に立ち返って学ばせていただいたことを付け加えて、総括とさせていただきますと思います。今日はどうもありがとうございました。(拍手)

○閉会

(小林副議長)

ありがとうございました。

生徒の皆さん、そして、会場の皆さま方におかれましては、長時間にわたり熱心にご参加をいただきまして誠にありがとうございました。先ほど議員の感想の中で、高校生の皆さんのそれぞれの思いをしっかりと聞いたと、大変日常からこういう取り組みがあって、若い人たちの意見を聞かせてもらうということがどんなに素晴らしいのかという感想が寄せられたわけであります。その中、高校生の思いの中には、今度は議員の側からの発信をぜひお願いしたいということだろうと思いますので、ぜひ議員の皆さまよろしくお願ひします。

そして、高校生諸君には、主体性を育む夏合宿のときにもありましたが、今日いろいろ議員や仲間と話し合った中、そういうものをそれぞれの学校に持ち帰ってさらに議論を深めたい、そういう活動をしたんだというような発表もございました。ぜひ、そのような取り組みをそれぞれの学校で、多くの生徒の皆さんが共有できるような、そんな活動をこれからお願いしたいと思います。

以上をもちまして、『こんにちは県議会です』～高校生との意見交換会～を終了いたします。お疲れさまでした。

(拍手)

—了—